

紙
譜
竹
技
折

排 27

5
1269



新刊
門番
卷

三

序

松と竹と梅を
三友と云ふは
世に傳へられたる
ことなり



の節操を以て
君子の徳を
象徴するに
似たり

乃ち松梅も
竹も亦これ
に類するに
可なり

故に此集を
外の書けり
と云ふは
亦た

此の自注
を以て
君子の徳
を

高く刺す
佳句を以
て

ハ松竹の
形を以て
詠ふに

其の如く
弱からず
剛ならず

其幹の如
くすねを
以て

中亦しあね経て余情あり
 りあ字大く半く何く活達
 たりし細くあふあふを巧し
 分神たちてをわいさすも景す
 く形て静くあふあふ異
 形その村をあふあふおふ
 まてかく呼ぶあふあふ直
 此竹あふあふをけあふあふ
 所の外あふあふく急てあふ
 空作あふあふのあふあふ
 子あふあふ

翁半世屋

凡例

- 一 當時は速美近在之宗近家
庵号の勿論住處苗氏等近郊
あり記自門檀林蕉門近在
部を分ちて見要ありむ
- 一 関防屋款の常々用ひらるるを
模写し但し梅松を編み出さるる
二 由書に載るる字の色家の下見
るる字を共々字に用ふるは其
大むいと載る
- 一 端字色家名下の朱書と肩
書に記し点列を記す

竹
 竹
 竹

一室通家四季の月向の中
 尤も此を以てとて多て出せ
 一年其様やれ多敷巻の中
 附て其判者の嘗て表石を其
 殊りき其の向と各の形あり
 ようそとて是を記して其を
 斗らしむ但巻よりそ向者の名
 分りて其の里本を以て取捨し
 知るる上て取刻を以て其の
 遠近何れに書林春星堂へ
 送りありん但其の意は改
 補を以て



反古庵天來
 汝星庵句梅
 春流洞負哉
 春秋園天淵
 有無庵負野
 無外軒負蘿
 白后齋負珉
 梅香庵春林
 松軒負蒲
 紅蓼江負室
 柳雪庵如春

檀林

五彩堂矩剛
 十南齋茶朝

蕉門

芦陰舍百堂

子日庵草齋

楸江舍祇杖

其日庵秋水

樗庵殘夢

清得舍呂國

八木鶯宿

二疊庵挑室

芙蓉庵井左

翁堂吐屑

八日庵其龍

故花庵超然

龜墻梅左

三四坊兔逸

井眉庵井資

晚花坊必山

秋月庵松隣

夜白園照海

瓢庵克國

松蔭素屋

鷺舍方利

月夜庵蘭明

善哉庵船齋

井圍庵眉山

月窓空靜
寄生庵鳳車

花屋庵鼎左
八千房淡叟

近在之部
蕉門

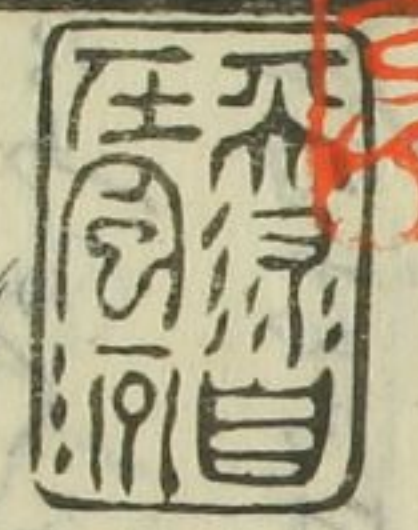
蝸牛庵左梁
長生庵伴鷺
黃華庵白涯
空木庵乙路

以上

道修町一丁目筋西入南側

古庵 牧岡天來
別号 花咲の系松夢陳人

溜井藏書



玩弄者深

大須居士



反古庵点譜

くのすのやふのねしりた年一
 彦中かふ付ふるた人のほひ村
 しかきやのほのまらしてまらん
 伯父の進老筆の筆ま二楨
 小女かたも花きりて郭公
 名目や馬の牛の誇り
 筆もく雪ふりてふりやむ
 銀もくはるまふあをて雪の戸

右 五古 換句

し 三頁

五、

青七

朱八

青十

朱十二

青十五

竹の茂

反古庵高判

愚ひゆる清心猫や猫月 芦雪
 月影はまほしの有や岨の柳
 楊柳各数千仞水溪溪 竹雪
 春の影はまほしの有や岨の柳 牛角
 まほしの影はまほしの有や岨の柳 一朗
 まほしの影はまほしの有や岨の柳 馬亮
 まほしの影はまほしの有や岨の柳 十洲
 まほしの影はまほしの有や岨の柳 富江
 まほしの影はまほしの有や岨の柳 龜逸

反古

反古庵歴代之印譜 兼袖印ハ
 松の手末よりいれん定々畧ス

天引二十

音

朱加印 一点

朱 廿五

朱 二十

青 十八頁

白借されしはるふ破る 河内弓削 麦岐

其世生るや身いふる月の体く物 可笑 イカヒ

白帯を好送ししはるや紅の衣

此本刈る象は中し 鶴鶴 馬水

秋の夜半未夜に 歩し 笛の聲 露白

懸けたる竹 下るる風 秋の音 樵山

御兵少少のや志は憂い 心 大和

鈴山乃 梵し 有 枯神 大和 我好

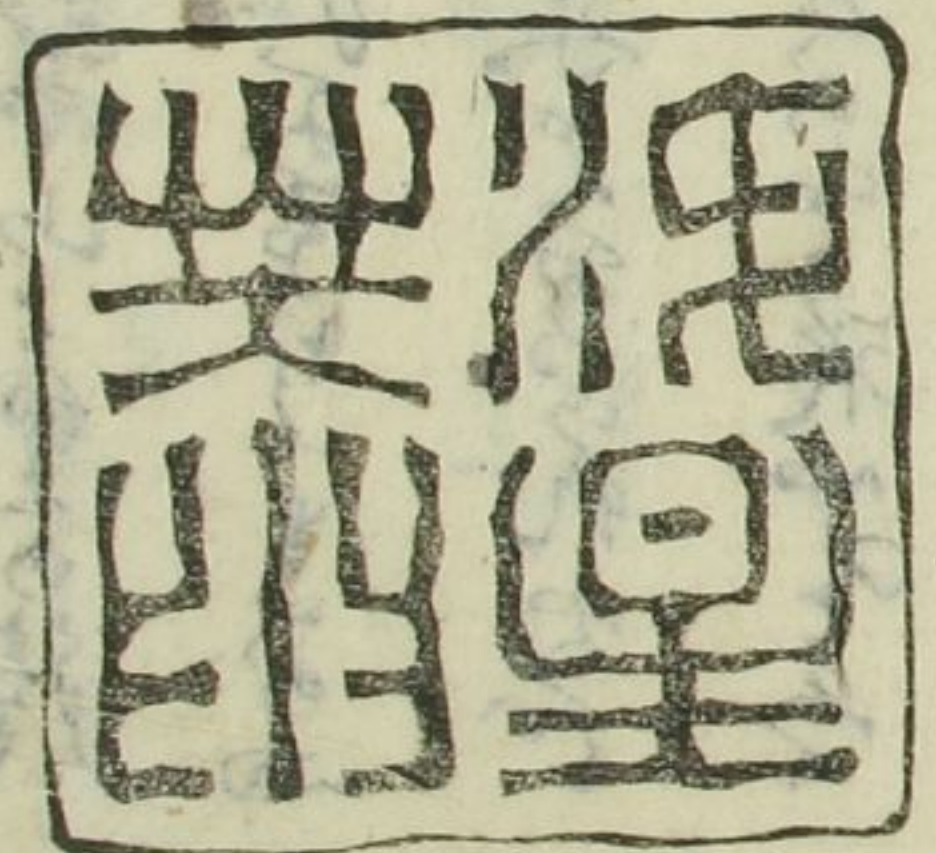
埋火や花と雪の舟の心 思樂

滝く初瀬の流きく 深雪 大和 九花

天満十丁目一筋 西裏門北入 東側
泚星庵 岡本句梅

竹の蔵

めいしき



汝星庵点譜



朱 一頁



朱 三、



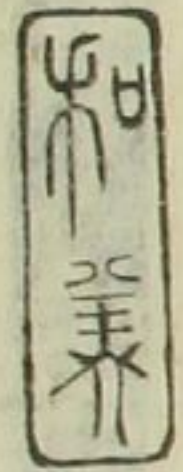
朱 五、

木

青 八、



青 七、



朱 十二頁

十一の巻

六

手紙の心算も世にふりまの清
 海にふりまの心算も世にふりまの清
 中元をふりまの心算も世にふりまの清
 秋白おやふりまの心算も世にふりまの清
 月影おやふりまの心算も世にふりまの清
 右 海軍省 句

汝星

汝星 岡本 四

十一の巻

判 高 庵 星 汝

日輪あけて空を穿て初梅 慕柳
 西海や内海をく旅心 恒人
 舟の灯を別は明の鏡の光 四角
 易経の戸に久し松の毛 文貫
 打つておとせしを祝ふ番柳 白賀
 紅の雪もゆめを茶子の毛 扁蒙
 月こそ有様おちては花柳 洛 三十七
 ゆとある少海も春や月夜 卜水
 千鶴や松のあまもよの目如 洛岡サキ 古山
 情飲やそとを秋も思ひは 撮岡三子 梅静

○ 1 の 巻 一七



青 十三頁



朱 十五、



青 十八、

興 齋



朱 二十、

家の軒や窓のまはりに梅門在坂
 ありあり有てけり杉の月洛 鈴木
 後、松を三尋する松きり 孤松
 周の懸崖のまはりに徳 千來
 今更にあらぬとぬ松徳 朝人
 古の松のまはりに徳 道樂
 竹のまはりに松のまはりに 花兄
 松のまはりに松のまはりに 素梅
 松のまはりに松のまはりに 花夕女
 松のまはりに松のまはりに 一三

天満舟大工町廣小路東へ
 青流洞 行岡貞哉
 一名重六呂又徳風



青流洞
 行岡貞哉



〇 竹の松
 乙

書流洞魚譜

冠傍



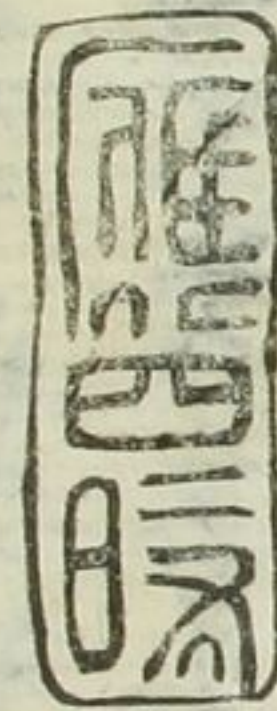
朱一、



朱全半、



書十、



朱九、



朱八、



書五、



三、

一點

右者、傍同、句

此字、亦作、
 書、御、
 研、
 月、
 人、

書流洞高判

書流洞高判
書流洞高判
書流洞高判

坪敷の松は花は梅の花 天王寺 標六

清きかぬ甲の松はや短子の夢 霞暗

清涼かぬ甲の松はや短子の夢

梅は月とあつたの連 帝眠

中々梅は世に流るる

燈かぬ甲の松はや短子の夢 雲列 歸來

車は別くもやうな 泥亀

人々の流るる流るる あま

柳は梅はよそよそ 梅風

初は、再び花のあま 藤丸

影の月、旭考も 野老

昔はや人の梅娘の梅 菱竹

遠くあつた 扇川

海舟やれはあつた月と鐘 貞風

子守の名を 春雅

子守の名を 柔洞

大よめ 山口

山口

春 秋 園 魚 譜

仙
...

* 朱
一、

* 青
二、

澗
朱
十四

三、
朱

朱
十五

羽
七、
青

朱
十六

八、
朱

朱
十七

十、
朱

朱
十八

十一、
青

袖魚印

一、
二、
三、

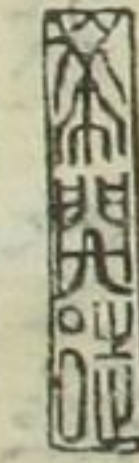


五、
六、
七、
八、
九、
十、

十五

十六

十八



...

判 高 園 秋 春

高堂の種もあらずや摘月 百乙
 引張り松ぼり成柳江右在坂 花朝
 掃盤を下結てまはる梅咲い 登録
 一拍子めけていふうやまの由 其替
江右在坂 ままゆふいとまうらるもの屯 文喜
 一日いふぬく後お牡丹江右在坂 可笑
 竹の子のほくてもや産の影 一朗
 掃盤もや越へてまあ青 沖清
 蜀魏おのふ後と書い子 若君
 園池田中、鶴のかい、白雲

惟子や懐きあはるはまき録 主々
 かきおの種もあらずや二女猫 ろく女
 茶のあま井の鍵も月影
 白借しれも何ん石カハチ 麦岐
 園方多啼気ハ折れ初紅紫 奥側
 躍も一和むらか 幹中 米沖
 時あや産の裏々様柴 楓良
 枯草の音の鳴きや江の向 任一三 戈
江右在坂 とけする和むらてはし 眉月
 雪は海流きやあまの茶亭 米堂

竹の枝

十五

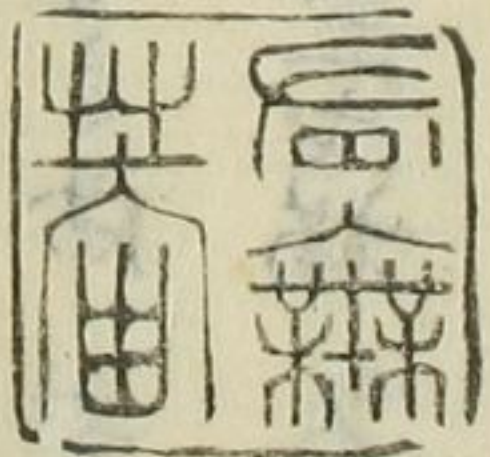
谷町三丁目糸屋町
右無庵

吉村貞野



刺

のりてん



明正の人名平寄白川まきの風

意多結袂や袖乃梅さめり

月花乃垢と吉野乃毛中裁

祝

勅多乃は母の松原二枝の山

恋

月川如津の心より我鐘の聲

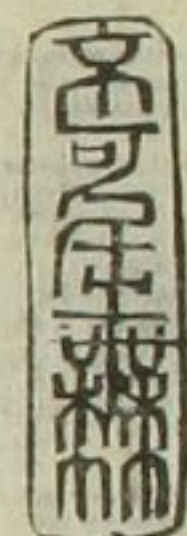
雑

旅人のあつら恵文や宿土の山

右 芳林の句

有無庵点譜

一点



七、朱



八、音



二、音



三、朱



四、音

朱音

九、



朱增一、



朱位半、



有無庵高判

おみろ柄物有ひおれは 江左版 自白

うむきししこのまき初敷 閑亭

花より柳はまのらうが シツハ 我笑

長閑さのちかきあや夜のよ シツハ 尋芳

花を坐せら外 シツハ 教はかり 巴童

おのゝとふも見えぬ 江左版 杜舟 自秋

多所田の有明き タニハヤミ 子知 完株

人あらしんも骨の光り 自珂

狗のやとん玉まの 野月

荒うねと月 洪園

星の如やまの如の糸落 江戸 塩車
 園西の柳がつかむ躍が 得賀
 おとりの乃やともむりの月 美水
 中流や行隅おやそくの雲 野橋
 老人さへうき秋を小秋砧 松秋
 錦さる子と白雲の成る キミラダ 勝丸
 夕くれと捨まは秋や取り クラバヤシ 友石
 初雪ふればふくや東山 蒼橋
 古くは福くふのかくが 自求
 心も自ら受る冬巻 江戸在坂 自求

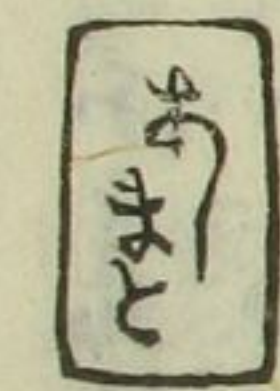
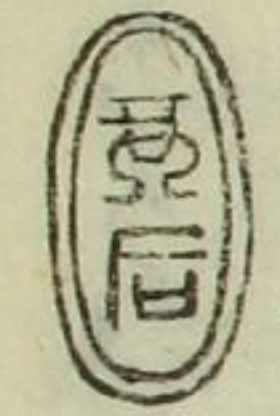
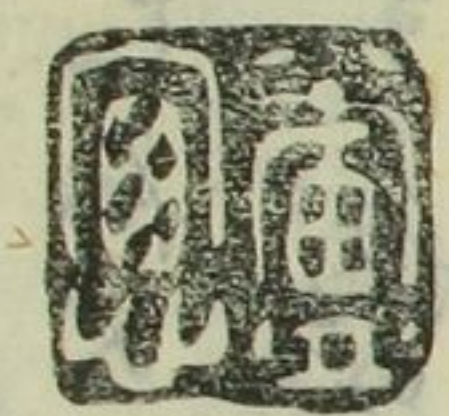
骨屋町久宝寺町南入西側
 無外軒 兒玉貞苗維
 別号 あり窓



大

無外軒

あり窓



無軒外高判

教への知るまじき名指の上
新く居居れと執く柳ぶ
よしつり人々何せむ指ぶ
五々々々々々々々々々々々々々
かゝる居居る持居居居居
新室や新室新室新室新室
ふあふあふあふあふあふあ
七ひひひひひひひひひひひひ
強力のまゝなる何よおれの家
年の跡越さるる年の漢い

天満小嶋町
白后齋
手塚貞珉
別号 芦蔭



白后齋
手塚貞珉



白后齋
手塚貞珉

○
手塚貞珉
十九

白右齋魚譜

白右齋

魚譜

まき丸松や松風さし旅お
 東をよと吐をよ軒の棹うさ
 掃よせりしれ淋や地のを
 涼しきも古あつらう月
 き風をおもは清うら
 針をぬき物かゝるや夏月
 松をせとつみさかろう
 美あふ花のちる乳色と小まき

右 五十六句

白右齋 千歌貝版

◎ 朱 一点 ◎ 青 三

蝶 朱 五、 青 十、

魚 朱 八、 朱 十五、

花 朱 二十、 青 三十、

舟 朱 四十、

鳥 朱 五十、

龍 青 六十、

虎 朱 七十、

かくし 朱 百点

魚の長

判高齋右白

彼延まきと知はりて亭 隣江
 母好婦くしく梅の毛若 指山
 江のあそと又んよるき雀が 蓼左
 花おし丸持合すやあちる 守人
 意あつと少くをくもるの鏡 貞器
 橋おちるとかきとて花管 母老
 表滝、二乃おんあて杜宇 玉呂
 のちて志望の命や冷し此 喜瓢
 宵寐さる病しききて夏の月 貞桂
 うきしの中おきて女おむ 梅若

月おきおとさの美づいし 李燕
 叶よりおねふ守しし月のき 夏竹
 月のやとちるるあそむあかて 芦室
 泳り入ておさうあつる月のけ 文洒
 一人り去て人いよるるおさる 花友
 おまねむ仕他人ん移る香 松次
 影ほぬ心お母し ゆり花 キミシノカ 左達
 耳とせし信と兼るる歌中が 貞之
 香の花曉のそまら炭火が 月瑠
 瓶いさる鈕とあしんか梅が 東啓

下の子

三十一

安堂寺町谷町北入西側
梅香菴 清水春林



清々

梅香菴



たのん此木と見替り梅の影
署と梅と梅にかき山と
いふ書の形や深める草の園
這いよけ雪掃てはる朝戸が
右 梅香菴白

梅香庵点譜

二点
吉七

五
朱八

天
吉十
朱十二

華中
吉十六
吉

登平
朱二十
朱十五

朱青
加下
朱

朱
二十五
朱二

梅香菴高判

春雅

水魚

文定

希勢

兔友

共清

紫風

吳鳥

芦笛

鶏宝

下
三

仙の... 三十三

ふらりとちる玉器... 山寺
二日と月一朔あり杜若 雪窓
舟のたやむ風うはのまら根 帛友
かきこころやうぶ初飯帳 希若
まの戸や竹庵持込搭号 一貫
やま今時を難持を甲下 如豊
木蘭のよるまきふふ今秋の花月
若あや松の山の根もや 年雄
折る木とくまらやの山根ふ 牛角
村まよひさるも原ある雪のうら 梅枝
十カ上

平野町八百屋町北入西側
松 軒 浅井貞蒲

判

松軒貞蒲



三十四

松軒点譜

留まの石の柳結んでつら
 飛巻海のまある物たつら
 名月やわらゝ空を色るる
 是れれむ雅のつらや初めゆ
 右 本々 白

二点


三、


五、


十、


加印

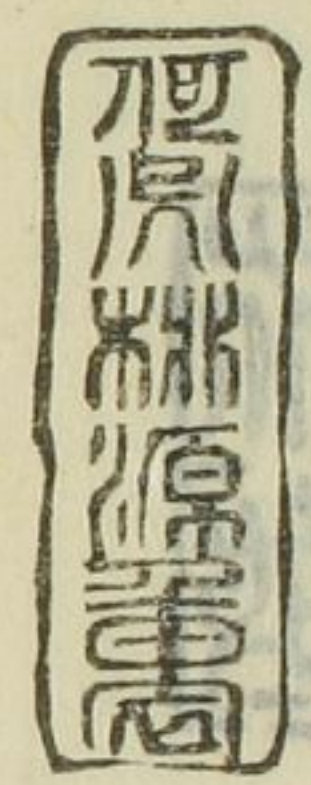

竹の枝
 三五

南長柄道場

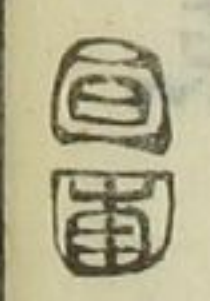
紅蓼江

御崎 貞峯

刺
の蓼江



蕉



人好氣を皆捨ててりぬ世の縁
さし流のうわら ちてはすまぬ風
おとろふ中やる 梅
幅の人押とせぬ四糸川
聖とふ心知くはあの日
おとろふの時をさあらしきる
我々けしきとてちるあはれ
さし流をまいては心也

右 紅蓼江 句

丁の巻

上

紅 蓼 江 魚 譜

竹の枝
二十六中



二、
一点



朱
三、
蓼

四、
青



朱
七、



加印
青
一、



加
朱
一、



全
朱
二、

天満川寄
柳雪堂

一名
阿部如春
井二



柳雪堂



竹の枝

二十六中

柳雪堂点譜

木隠れて柳雪のさし松の
ささくは角より動く地牛
蕭のささくは柳雪のさし松の
ささくは角より動く地牛
右柳雪堂白

○ 朱 一点

國 音 三



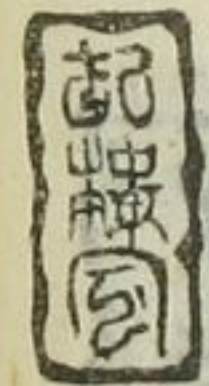
朱 五



音 八



朱 十



朱 加印 五

天満夫婿町
五彩堂 入江矩州



授考

五彩堂



五彩堂点譜

ろ

音 五、

關

朱 十、

正

音 二十、

關

朱 三十、

關

音 四十、

類

朱 六十五、

音

音 八十五、

音

朱 百、

深きものやまゝや梅白く
 くとおひて足せり能く
 かひある梅も若くは清き
 風帆、ゆゑに松や心を
 誇りのいろくまうらな
 うきやもやひ日さし土
 更くはふとん短く思ひ
 楳林を猫人止る候

右 五彩堂句

二十七八



青

百三十一



朱

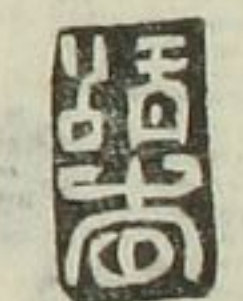
百五十一

余八加印之

袖魚印



朱



青



全

三



青

十一



朱

十二



朱青

十五

余八加印之

擢屋町竹助大齋橋一丁西

十南齋 竹舎茶朝
別号諷竹庵又其角堂



茶裏旧号相續ス然
氏卧鵬ノ免許ヲ以テ
立礼ス故ニ其角堂号
有テ蕉門ヲ兼ル

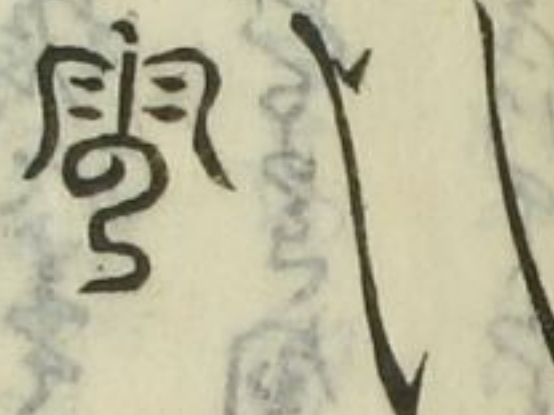






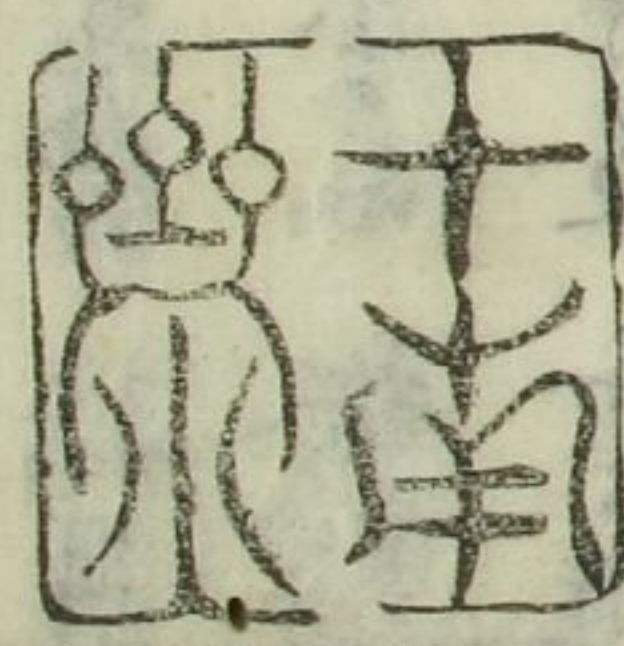
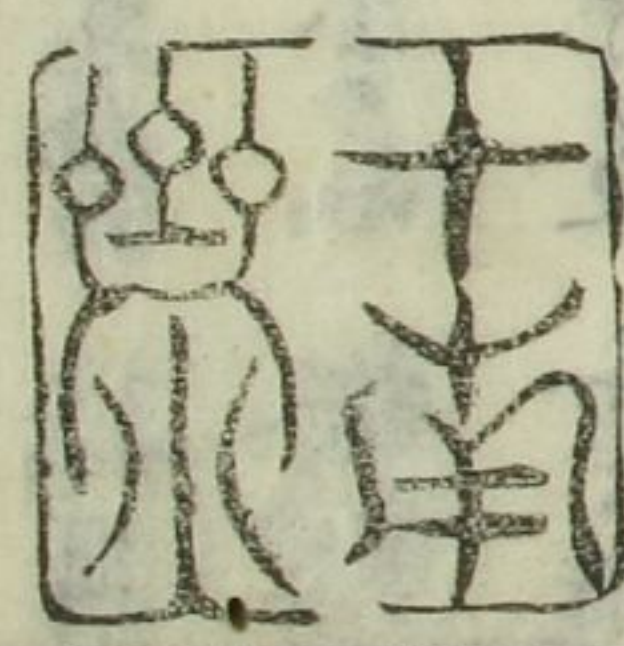
顯撰擇

十南 一 齋



竹の巻 三八

十南齋点譜

 二点
 六
 八、
 十、
 十五、
 十三、
 二十、
 二十五、
 二十五、
 二十五、
 二十五、
 二十五、
 二十五、
 二十五、

一の山あり
 よもゑるおや様とちかき
 おもねむらうよみのるよき
 顔の眼をまきぬはより
 惟よ知のさくらお遠なる
 身おのへしゆをまき枯火
 神の代のおひらきおのさ
 遠果報々やまのふも
 われよまの解花の顔ひと
 右 せもあ 句

十南齊高判

花の香いそりてあはれ 指月
 ちるる影やと千ふふの仙 梅柯
 動くさ水花の影うら 千雄
 木まきほ懐くは月と屯 雷車
 嘆満て眼の影うらぬ影が 登世
 魚の揚ねるるまきほ影 卧石
 相まやりまきほ影を 路秀
 炬燈のまきほ又よる影の丈 大和シラ 隆士
 日影のまきほ影の光と影 今 連奇
 早影のまきほ影のまきほ 夏五麻

影の影や揚ねるるまきほ 今 卧堂
 まきほ影のまきほ影の影 今 都春
 まきほ影のまきほ影の影 今 東柳
 足影の影の影の影の影 今 風葉
 舟と丘影の影の影の影 今 水音
 船影の影の影の影の影 今 全
 有影の影の影の影の影 今 凡石
 空影の影の影の影の影 今 堯元
 裸影の影の影の影の影 今 山月
 影の影の影の影の影 今 尾石

十南齊高判
 三十一

農人橋東結南入

芦陰舎

田邊百堂

不取味

判

西二十二年... 依... 弘... 中... 祖... 芦陰舎... 大魯居士三世連... 阿号

因色るる



七種... 初... 雛

... 雛

... 雛

... 雛

... 雛

... 雛

... 雛

... 雛

右 芦陰舎 白

芦 陰 舍 魚 譜



朱二



朱二



朱五



朱七



朱二五



音十



朱三十



音十二



朱五



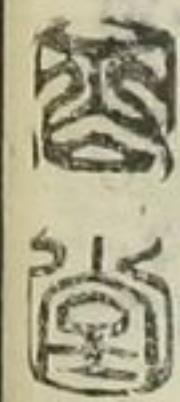
音十五



音加六



朱十七



芦 陰 舍 高 判

草陰のこゝろのやまの鏡

蘭室

向形そよよや雀のりかき

化実

茶店を人に見飽ぬ梅

白水

雪流を浪もたててまの酒

欠雪

りまきや山は流る茶の烟

白水

湖の小は秋をいふと

古眼

時を流る川はとあき空

九池

とけまら帯を束る七八生海

吉喜

おぼろのあつく端む異

口口

く風はあそぶあそぶ火紅虫

菜亭

三十一

白鳥程亦て涼 他の裡 松本 雪と像

白鳥のうらみ 松本 松人

魂物 松本 松高

狹狭 松本 猪狐

松の白の花 松本 巨袖

名月 松本 停雲

山里 松本 文路

草 松本 玳岳

菖 松本 白遊

む 松本 又 万像

曾根山寄住
子曰庵 山村草齋

羅漢

不

子曰庵

羅漢

羅漢

丁の...

子日庵点譜

一ふきて是る花の老若並

見れ隙のむきて少匠さきの香

砂強くふくゆる牡丹の香

身は付ぬけや疾風の雷魂

晴らるるふくまをてふり月影

疎穂をさけ一田の富の市

角のからきり老の枯尾花

初雪を白ひるくと唄てらん

右 子日庵句



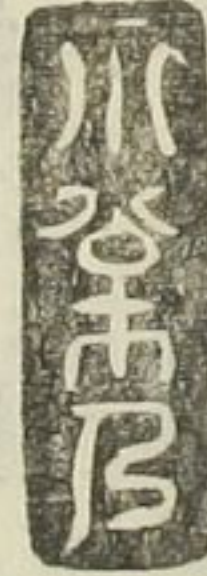
朱 六点



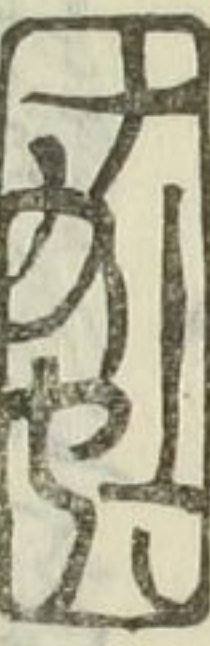
音 八



朱 十



音 十二



朱 十五



音 二十



朱 二十五



朱 音 五十



冠傍



竹の枝

三四

イ

三十三

子日庵高判

正月も湖の岸に田の旭 曾洲
雪もあつと縁も静之 春山
湖をまわく川をみゆ 柳危
蒼蒼と鏡看るるや雀の 耕李
木は陰もあつと此の畦 家香
晴止く花がくはる田の畦 都迹
時芳生れ秋を度する垣が 玉昌
あつと生るるあつと梅が 春思
行はせとるる船の軒やお梅 其翠
まよふとらんあつと梅が 竹人

筆とりて乳まけする之花の中 卧堂
曉や灯らるる人こそ時鳥 簾六
藤深く大粒あや子規 伝八
新梅只今果て杜若 竹兒
越向と代向のつる木槿が 卧堂
あつと花のあつとあつと在るが 伝八
海の中もあつと海の人こそ成 知十
舟をるる形もあつとあつと李 都迹
暖のあつとあつとあつと李 耕李
あつとあつとあつとあつと李 耕李
あつとあつとあつとあつと李 耕李

イ
三

竹の
三

高津表門助真言院東入北側
楳江舎 稻津祇杖

宋

楳江舎



以復、雨、露、總、句、入、ま、り、日、射、
日、射、り、ハ、雪、小、多、多、多、多、の、風、
色、も、の、極、の、新、也、田、の、ま、り、
日、射、り、や、北、の、海、田、の、ま、り、
楳、江、舎、ま、り、知、り、日、射、り、
ま、り、ま、り、ま、り、お、の、新、也、秋、の、月、
ま、り、ま、り、お、の、新、也、ま、り、
ま、り、ま、り、と、ま、り、お、の、新、也、ま、り、

右 楳江舎 句

楳江舎点譜

朱 三五、

𠄎 音 八、 朱 一〇、

𠄎 音 十三、

𠄎 音 十五、

𠄎 音 十八、

𠄎 音 二十、

𠄎 音 二十五、

𠄎 音 三十、

梅江舎高判

吐嶽

如葛

壽扇

花頂

松人

鶴步

朱中

芦風

獨醒

花逸

三十一、

三十七

暮らふも近き由起る風 尺牒

髪ははらふらぬやき廣く 引思

青斗りよく木屑の清き風 寄松

行きまじりぬのふゆき有 星澄

夕雲の原の葉は乃灯梅

厂雲の白ゆきのうをばり 春人

梅のうらむたれはあふの月 梅雄

掛やぬる花のほろりふ

峠を松明の周を歩むる 全

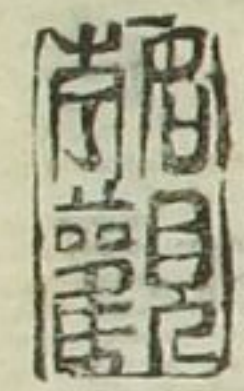
鴨のあふをとりて眠る 其濤

堀江鐵橋北緒北入西側
其日庵村上秋水



利

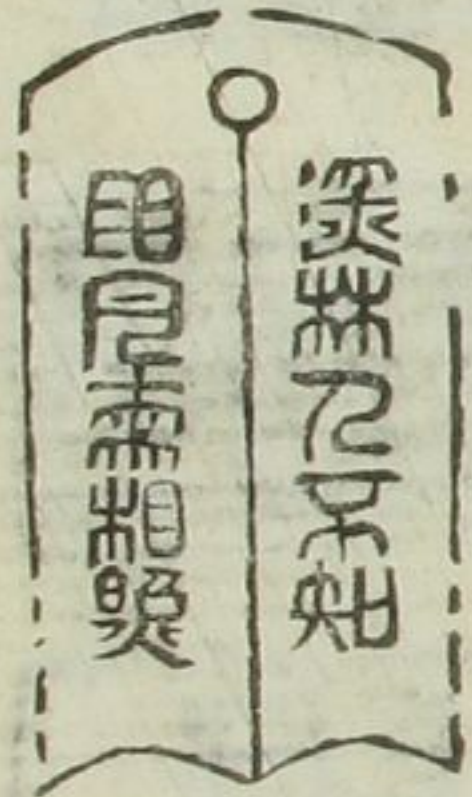
夕
秋



丁の巻

其日庵点譜

音加下



二五

朱



音
二十一

翼周自南来

朱
十五



朱
十



音
十三



朱
五



音
八



朱
一点



音
三

右 其日庵 句

福手字家掃のぬ埃のかりり
 芥子よのゆけ家掃の使が
 朝鏡よやおつと拵て二處
 蘇乃よの祝と枕と拵
 うついで開心集う芥子乃拵
 鬼切と吐てやうと拵
 清らね此拵と入る拵
 死を考乃多入浅くは流是危

其日庵高判

まき風をききまきあかき屋 千齡
りまきや満かきまき味
ゆまきや菓まきまき子まき 為声
まき風をききまきあかき屋 喜雨
まきあかきまきあかき屋 起鳳



伸瘦すく秋をきまきあかき屋 其月
身をきまきあかき屋 高野 荷岳
伸瘦すく秋をきまきあかき屋 竹風
身をきまきあかき屋 一重垣
伸瘦すく秋をきまきあかき屋 全
伸瘦すく秋をきまきあかき屋 星澄
伸瘦すく秋をきまきあかき屋 其扇
伸瘦すく秋をきまきあかき屋 其樂

Handwritten notes in the left margin, including characters like '日' and '月'.

天満池田町突當東入南側志井庵室
標 菴 梅塚残夢

一名 烏馬馬居士

約 花

音 集

竹 齋

竹齋

正月ハ娘と入るよと本奥ハ
笑々々々々々屋の中を芥子豆乳
角瓶裏、字書有てまじり
本町ハ名亭抱強ひ杖のをも
右 標々々々句

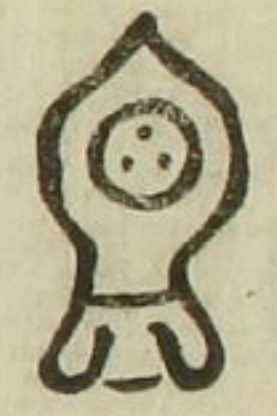
標庵点譜



青
十
鳥



朱
二十五



青
四十



朱
音



六十

古
七
音



八十五

標庵点調

多きよのゆあー梅の毛草 万和

吐くまの標のまき輪舟、木僊

家戸のふくろは松の月、升六

あつと笑ふりり年のまゝ、屋烏

草草あや海山の旭居の月、花溪

天井の標と服の付く景、松園

八木
八木
八木

安土町心齋橋西入

八木

鶯宿



知

多



方



雪のやうに白くあつてもいふは
ふたふたや木々あつてもいふは
枯海とよめていふはむらさき
斜枝乃あつてもいふは梅明り
梅ももてあつてもいふは梅のこ
り枝のあつてもいふは梅のこ
すふとて朝のあつてもいふは
あつてもいふは梅のあつてもいふは

右 多 句

鶯宿点譜



朱 半点



朱 一

青 鶯

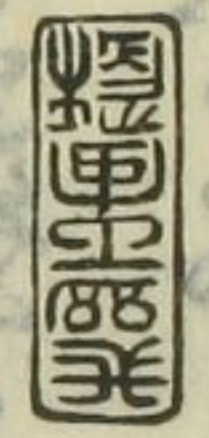
青 四

出 譜

朱 五



青 六



朱 七



青 増印 一

鶯宿点譜

高野 多形 舟りん 送る 梅の 白ひ

斑竹 枯草 芝より 疾ふ けしん 竹が

青山 月 けを 輝く 玉 花の 影が

梅 影を 重なる 白ひが 中

高ヤ 二 三 り 影の 影を せし 性 全

全 雪を かけし 疾ふ 玉 花の 影が

玉呂 青 鶯 二 三 り 影の 影を せし 性 全

中 見 影を かけし 疾ふ 玉 花の 影が

羽 窓 引 押す 見し 玉 花の 影が

帳 掃く 影の 影を せし 性 全

中 丁 の 帳

扶月と云ふの擬や跡の月 三光

之方と山彦は之麻の夢 香柯

俄もあひそ跡もや朝の晴 兔月

吟のぬれはては是を本種に

深きる入江のゆかりの月 梅彦

心もいとまをりせぬや雪の露 都春

海神お明のそと成なる 汀居

嚏をそそ振うるも是巨魁 董子

世をわたり人をもえす烟代也

洛 遷甫

本町撫櫃木竹助共入東側

二田宜庵 葉山桃室



訂校

嵯峨王御俳諧坐會頭

二田宜庵



竹助

四十五

二 疊庵点譜

四十五

苗初やなききの内も伸る幹
 毛の斗りや芥子乃伐る
 杜若まらうてのくもふらう
 体まらうてのくもふらう
 一さかろ釣魚刀人二さかろれり
 内川や情はけし付て能るは
 後くまらうてのくもふらう
 牛乃とくしの間や枯る花

右 二もろく横白

○ 朱 一点 音 五、

又もよ色 朱 八、 音 十、

東唐何壽 朱 十三、

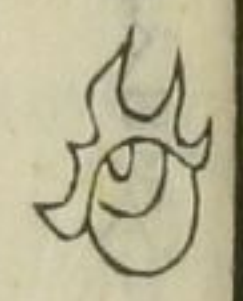
是遠源 朱 十五、

音 十八、

○ 張机を下る 朱 二十、

音 二十五、

東方朔 音 五十、



竹の葉
 四十六

二 疊 庵 高 判

鷲匠をよきかゝる美葉は
 湖の魚をくも曝竹の煙埃は
 軸人
 ちかよとてはあさくぬる梅の月
 乞枝
 海苔にやほら葉はま植のり
 其榊
 門出て裏のくあるきうあ
 松好
 形くくは上の形せぬ接あは
 吏碩
 尾持はくあを向てはき危
 东山
 力のあてはくある根芥は
 其隣
 菜花を月分持ま向ひる家
 得喜
 初めあはるのよきまはくあは危
 山任

是のまきある種はた旭が
 素梅
 まぬいれのあまほしむる扇は
 箱生
 花あがら一茂めりつ葉は
 竹雪
 短靴のまきあは抜て走る月
 千柳
 漸きとめては深葉はほほほ
 五葉
 月代や眼のゆるるひは芒
 杖夫
 米搗き逐てとよみはあは
 友月
 田の中をまねてはるる月の人
 素陶
 船舟や今代まの牙は持
 淇水
 何れもは指中へ漏る明は
 義一

竹の
 心

イの...
四十七

堀江橋通幸橋西入南側

芙蓉庵

浅野井左

一名 蛙之

南嶽馬

校

まなまの湯



那の橋や雨てあつて...を古

馬士...てのく...うか

草花...書生の...端牛...

念...を中...は...はく...

花...と子...あそ...の...

岩...入...や...業...と化す

花...と...犯...を...の月

花...か...を...の目...

右 芙蓉庵 白

譜点卷蓉芙

朱
一点
朱
音



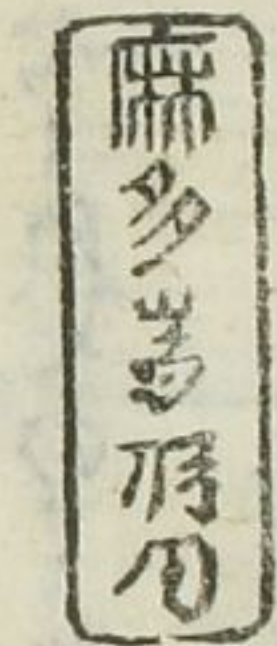
朱
八



音
十



朱
十五



朱
二十



音
朱
五

井左



音
朱
五



井左

竹の
田

芙蓉庵高判

猿灯の輝くさむ報孝ツ山 武仁
 神弓の海も家も松の毛 壽仙イヨ
 眼積り初なる破る官徳 子雀
 汝先を信するまむ海も心 井壽
 呼と只起くさく乃の麻 井奄
 お種々の信で抱を誰イカ 碎
 勝勢や抱ひさるく息をひ 為之
 疾く心の上も花さる心 井鱗
 うら漏れ抱く涙や古形電 磯遊
 橋ちが岩城は付五形が 其清

杜宇啼や春区む批把の種 哥月尼ガサキ
 慈ふ此の中もあはれあはれ 巨海
 池一も深の流れて好の毛 井鳥
 夕ま紅晴にさし木の葉 井雀
 秋風わと眼ふらさくねと吹芒 南飛
 冷夏を馬乃にさる葉の毛 赤間屋赤間屋 何月
 月ま中明な麻あつちつちが 井栗
 一宇下るしひく桔更が 壽扇
 海付懸る付伸る紫苑が 近江 松友
 春の人のまてきあへし好の毛 文中

竹の枝

五十一

島内清水町境筋東入北側

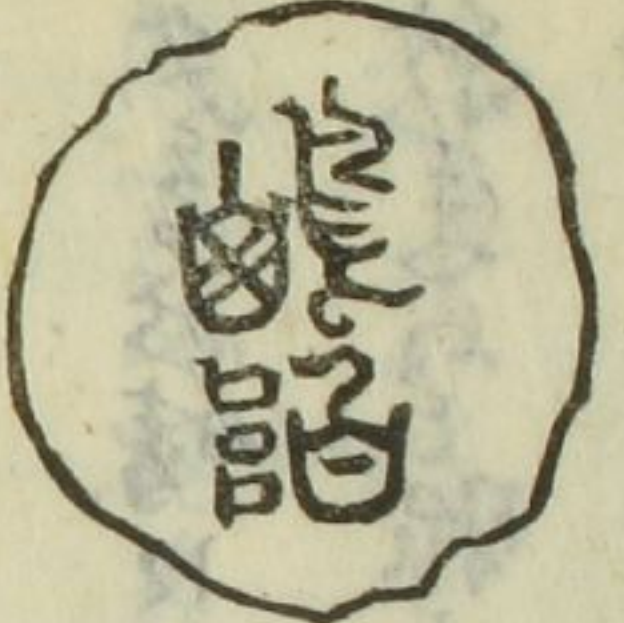
公利 堂

正風道場

辻鼻吐膚

廿五日生

翁常之吐正膚



此庵主常現幻庵稚木ヲ以テ
芭蕉翁ノ像ヲ彫刻シテ懇望ノ
人ニ授與スルヲ事トセラル

佛塔の奥をむむ足され

古他の信心家ヲ授與せられた

志々々々々々々々々々々々々々々々

々々々々々々々々々々々々々々々々

々々々々々々々々々々々々々々々々

々々々々々々々々々々々々々々々々

々々々々々々々々々々々々々々々々

々々々々々々々々々々々々々々々々

南無阿弥陀仏

右 翁堂句

竹ノ葉

翁堂魚譜



青一点



朱二



青五



朱六

中印

青八



朱十



青十三



朱十五

貽昆鯨

青二十



朱五十

右調印佳章堪翫稱焉因為賞賜報以尉入翁雅叟之像焉

翁堂高判

第一好山第一乃初思 馬禿

第二好山第一乃初思 尺粹

二日中初乃花初乃初思 可樵

遊方日を先貫あて二日矣 池田 美丸

形と云は川も海も乃草 南草

吐嶽 五陵更

形乃初乃花は二日山乃草

及乃上乃海 乃初乃花と水

森の里は白鳥見てる故の海は

無塵

五十二

又采や交越姑の列白

最秋のふきふかひや半途 梅園

浮舟の魂を遊小川能儀鬼 孔思

鬼灯やうきあやと七之草 其考

秋多を神を付志法若系 岐嶋

とくも九月毎ふえり少き 十一周能

呼吸をさうり丸也熊勢 仿中書力 太六

旅乃南園亭若中のみほし 春聲

松林乃方々も折三柄互片 近雄

世乃人乃越み経もゆきふ 孤雲

南堀江五丁目
八日庵 晋 其璣



交煙 乃 乃

乃 乃



竹の葉
五十三

八日庵点譜

土夢中用さるる丘や柳の花

一若しはつゝ思ふ事やそなた

さるる如く思ふはつゝ秋の月

死る事や碁子の一子子越

右 八日庵句

八日庵句 其譜

○ 朱三、
書六、

朱八、
書九、

書十三、

朱十五、

書十八、

朱二十、

朱二十五、



かゝる琵琶 五十一、

竹の葉 琵琶

八日 卷高 刊

義のやまらば申梅の糸

浪燕

お杖と新開のちるあが

竹水

恙やふゆるあしの掉長

登竜

糸妙もまゝの葉お指が

鳳岳

出揺るお城のちるあが

太壽

まをわけてあはれや麻白

千齡

のこりのまゝあまの白ひ

春雄

横はまきりあはれやの峰

松人

初やまきりあはれや

巨洲

白雲やあはれやあはれ

其濤

片の日は遠をる美草谷

其濤

十を九をぬ月とあはれ

其濤

松のやあはれやあはれ

其濤

見をるあはれやあはれ

其濤

流はまきりあはれや

其濤

あはれやあはれやあはれ

其濤

あはれやあはれやあはれ

其濤

あはれやあはれやあはれ

其濤

あはれやあはれやあはれ

其濤

あはれやあはれやあはれ

其濤

あはれやあはれやあはれ

其濤

安土町井筋東へ南側
故花庵 三木超然



考

友志居



松を掃く筈のこゝや梅の花
あきのまぢあつて涙かゝる
以て秋の空を白く掃ふが
眼にのぼるうきまの静寂
きこえたるやうも満て月と
月もあはれぬものしや照らす
二のりしてはみ知るや川あはる
米はひらいたるくや香かきり

右 友志居 白

丁の表
早六

故花庵点譜

朱点

青三

花垣 八、

虎の尾 六

泰山府君

青十二

虎の尾

朱十

雲珠



青廿



朱十五

揚貴妃



朱廿五

南麩



青五十

故花庵点譜

吟の川を流る三日の初春の 光林

蝶の舞ふ花畑の 有山乃系 真起

秋の雉子鳴や秋野の 如雲 如玉

枚の及井戸根の 柳が 竹馬

擢ののりうらふ 乾婆

川舟の舟くまの 延三

雪のふりかたの 馬亮

松の葉を折る 九花

雪のふりかたの 雪鷺

雪のふりかたの 定水

竹の葉

夕も夕海にそゆる松や燈の夢

破乃や藤子ののりより和鼠大拍歳

さしゆの空の結る雲を寄竜

徳おのしむるも石の雛得壽

まよふ人よひさるる小まき月アハ送

花まゝさきつらとても花中花梅溪カチ

字かゆの人ぞむをえ八師カチ蘭室

庵近ふまてとてひあもる雪直入カチ

まを掃のほてり後カチ五樓

梅の木に燈灯掛て星カチ古鏡

當時遊歴中
亀 藩 松井梅左
文通所 高尾橋二丁目 藤屋善七



将致

梅左



梅左

龜 牆 点 譜

何の... 五ノ...

飛々飛々外々塔々々々々々
五々々の時々々々々々の上
田々々々々々々々々々々々々々
鳴々々々々々々々々々々々々々

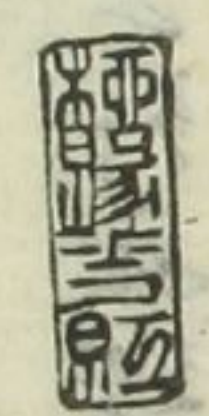
右 龜のま句



二点



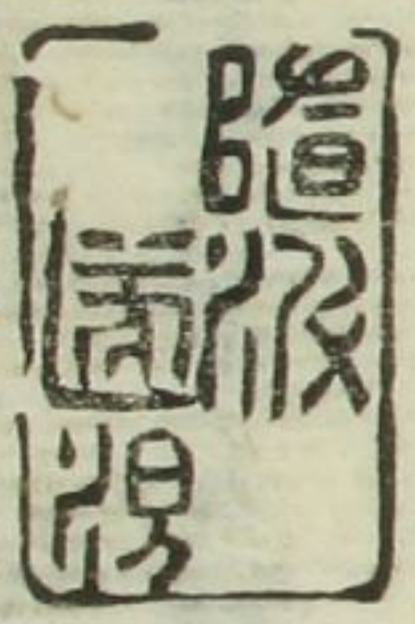
三、



五、



十、



褒美印

判 高 墻 龜

懐播
 角戈
 蝸庵
 竹風
 年夫
 雙悟
 完玉
 龜洞

宜風
 糸遊
 水哉
 呂國
 所厚
 花柳
 布勇
 其嵐
 桂玉
 茶・籟

伊の...

五三六

竹の...

六十一

上町
三四房 萩野 兔速

朝三書目

三四房

三四房

大さかす梅きの日初や清やまむ
みちのくに梅きよきとせぬ柳
鞆をこもりて起るる山は梅
一まらむ 飲むと主税くきもふ
ちうけり力もけりけ芥子の靴
あつる身とあはれ神太鼓は
けけや抱病の付標かち
冥月や候るひあふ掛の姿

右 三四房 句

三 四房 魚譜



朱 一点



朱 三



青 四



朱 六



朱 八



青 十



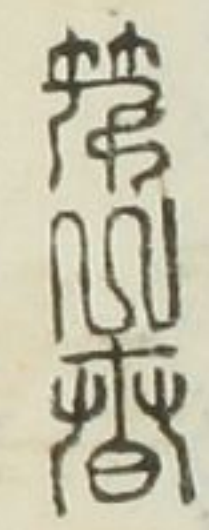
朱

十二



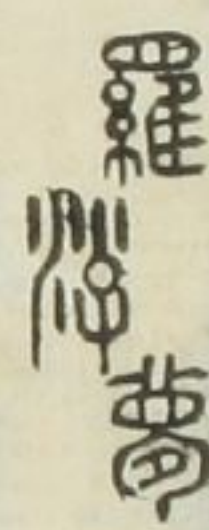
青

十五



朱

二十



朱

二十五



加印青 一

三 四房 高判

春雅

白賀

里東

可中

杜固

牛角

梅柳

布友

具濤

樵山

心齋橋三津寺筋北へ東側
井眉庵 西 井資

井眉庵

井眉庵

井眉庵

おのゝ足はあまのきよき

こゝろむらさきの柳が

近邊から花をたより更衣

申のちやのちよはゆる

見物よのちよはゆる

小枝をもちよはゆる

まゆをもちよはゆる

年のちよはゆる

右 井眉庵 句

井眉庵点譜

無印八五



朱 一点



朱 五



朱 二



朱 六



朱 八



朱 十



朱 十三



朱 十五



朱 二十

朱 二十五

南草

里童

秋山

蛙声

南飛

可中

和風

路舟

松吟

花溪

井眉庵高判

南草

里童

秋山

蛙声

南飛

可中

和風

路舟

松吟

花溪

六十四

六十三

嵯内鱷谷中橋東入北側

晚花坊 小嶋 必山

狂歌

晚花坊



必山

おぼろの月 照るは 雲の 影の 初時

教入 此 亦 門 乃 景

おきぬの 草の ちりや 花を 柳

時を いた 亦 花 木 や 友 の 月

里人 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

作は 亦 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

空を 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

流且 亦 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

右 晚花坊 句

竹の 影

晩花坊点譜



音 八



朱 九



音 十



朱 十一



朱 十三



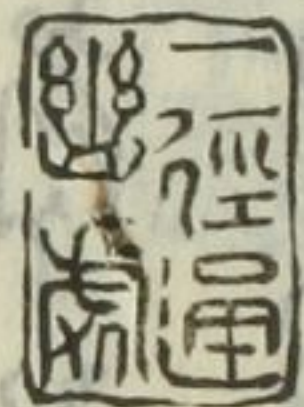
音 十四



音 十五



音 二十



音 二十五

加下 朱一

晩花坊高判

竹のハチマキを合やねの内 定九 花逸

花のうらみをうらまき 定九 霞鳥

山は月をまじりて 定九 吉山

三日月の海を日 定九 松葉

打不 定九 墨雨

菊入 定九 堯洲

陽春 定九 知風

山霞 定九 蘭光

ま 定九 鶴步

来 定九 其月

竹の...

...

竹の葉
三十一

枯きる眼より松の若葉は北社 仙夢

友光のまろ銅山の若葉は 五蝶

苔ふみたる石の下の暑が 花月

水打つ石も残つてはハクミツ子 起風

朝かきぬ海のみまきり月 松人

日車の後ろに影さきやあは 兎月

白くも依てくろくおの葉 風月

野の草はよもやまをふれ 尺牒

雪はねの心もゆき打つ 寿扇

夕陽のまはる松のくま大堰川 花調

福島遊摺ノ松ノ下

秋月庵 清水松隣

はな松竹



竹の葉
三十一

秋月庵点譜



端南里膳

推深舟



耐年付し梅を尋せて和氣の船
 舟中と昔のがらに梅の香
 昔の舟中をよむに梅の香を尋
 底の舟の行はるるに梅の香を尋
 りし舟中をよむに梅の香を尋
 昔の舟中をよむに梅の香を尋
 りし舟中をよむに梅の香を尋
 昔の舟中をよむに梅の香を尋
 りし舟中をよむに梅の香を尋

右 秋月庵句

秋月庵
 松本
 三十一

戎橋筋南入

瓢庵

吉村充國

考

瓢庵之國



人の氣小なるに柳が

さねあはてよれのあやさし

桐乃葉にてはなはらうと

附き入て秋をさしぬ世の

看すのまをさしぬるも

物の事異のくまみちを

引かふるふと人のよや

右 瓢庵句

此人常々抄せぬの

画と書と

竹の葉
三

瓢庵点譜



朱二十一
朱十五
朱十一
青七
青五
朱三
青一

心齋橋北久宝寺町南八東側
萬
舎
永井万利



権鼓

萬
舎



二十

蕙 舍 点 譜

山より命花より外の歌ハ家

まきのり果何のあつても惜ま

嘆とく日ら嘆るてあ子の也

掛りの哀れらあも蝶啼斗り

あふれれれまうとあも一層啼

月好ま白ああくとおあ人

枯枝よりんせと樹柳が

大雪より又あつては先望園

右 掌 舎 句



青 三点



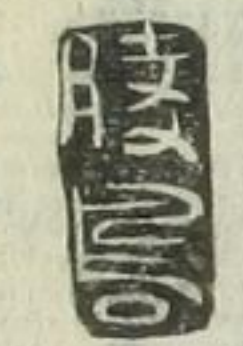
朱 五



青 八



朱 十



青 十三



朱 十五



青 二十



朱 二十五



判 高 舎 葛

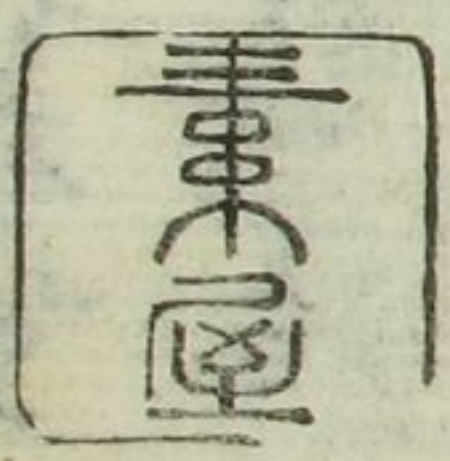
多岐くせきおの指し 友雀
友雀の御歌 草花
草花の御歌 蘭室
蘭室の御歌 蕉
蕉の御歌 林水
林水の御歌 烏白
烏白の御歌 花遊
花遊の御歌 玉呂
玉呂の御歌 万英

雪踏屋町谷町西入北側
松 蔭 岸 田 素 屋



松

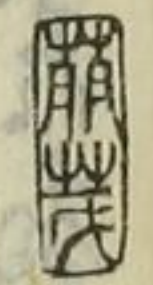
松 蔭 岸 田 素 屋



松 蔭 点 譜



朱
二点



朱
三点



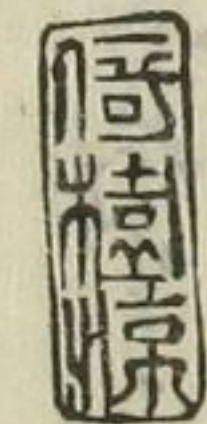
青
四



朱
五



青
六



朱
七



朱
八



朱
十



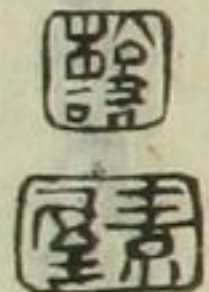
青
九



朱
十



朱
十一



松蔭の如く知るを志す
松蔭の如く知るを志す
松蔭の如く知るを志す
松蔭の如く知るを志す
松蔭の如く知るを志す
松蔭の如く知るを志す
松蔭の如く知るを志す
松蔭の如く知るを志す
松蔭の如く知るを志す
松蔭の如く知るを志す

右 松蔭 句

松蔭の如く知るを志す

七十三

松 蔭 高 判

千來
 負恒
 柳枝
 松左
 多吞
 南枝
 松人
 東啓
 梅郷
 十交

双雀
 秋介
 元枝
 守香
 春窓
 斑竹
 東雪
 梅門
 都春
 年雄

島内難波橋周防町南入西側
月夜庵 田上蘭明



判者

月夜庵



今更なる暇はしきめめ梅が
何著ししや性のかんき
まきしは候きまのやねのや
や樹しきるは流るるや
板柱の細きまきハきし
とあつたきあはる山の中
やまのまきしきしき
やまのまきしきしき
右 月夜庵 句

月夜庵点譜

朱 一息 二

朱 四 六

音 八 十

音 三 五

音 二十



月夜庵高判

孤山

柯章

孤雲

露月

花月

年雄

壽扇

孤山

振良

定九

竹の歌

二六

松人
 松人
 松人
 尺牘
 其清
 星澄
 春人
 其月
 吐山獄
 一蕉
 鶴步

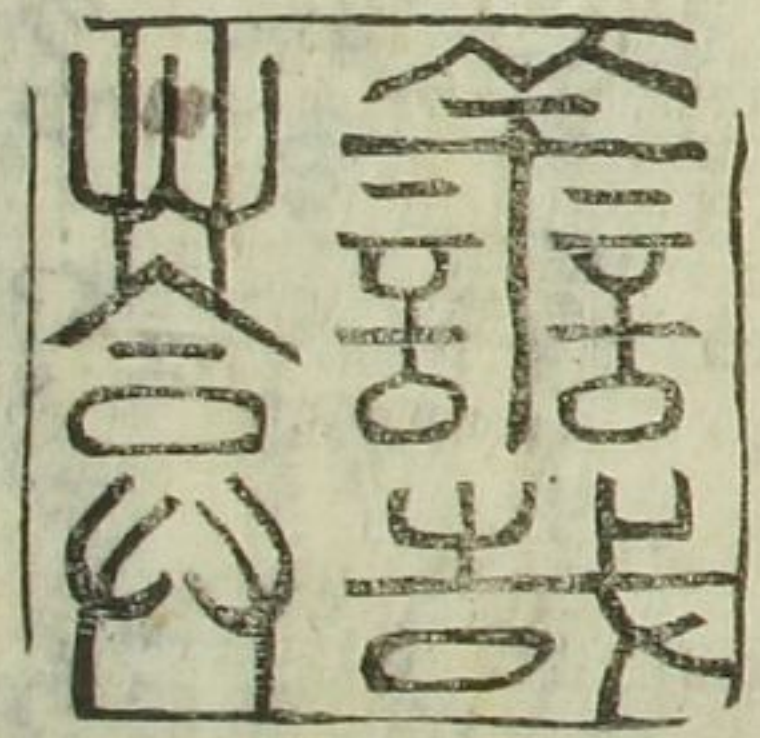
善哉庵 坂 船齋

西横堀女藤町小路北へ東側

舟之公齋

善見

善哉庵

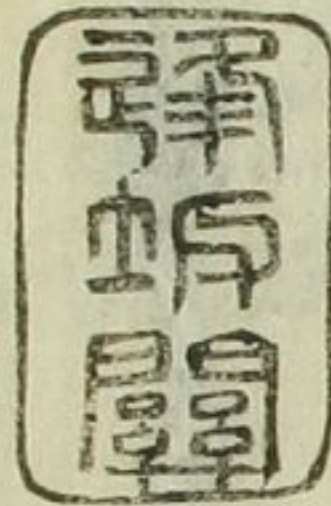
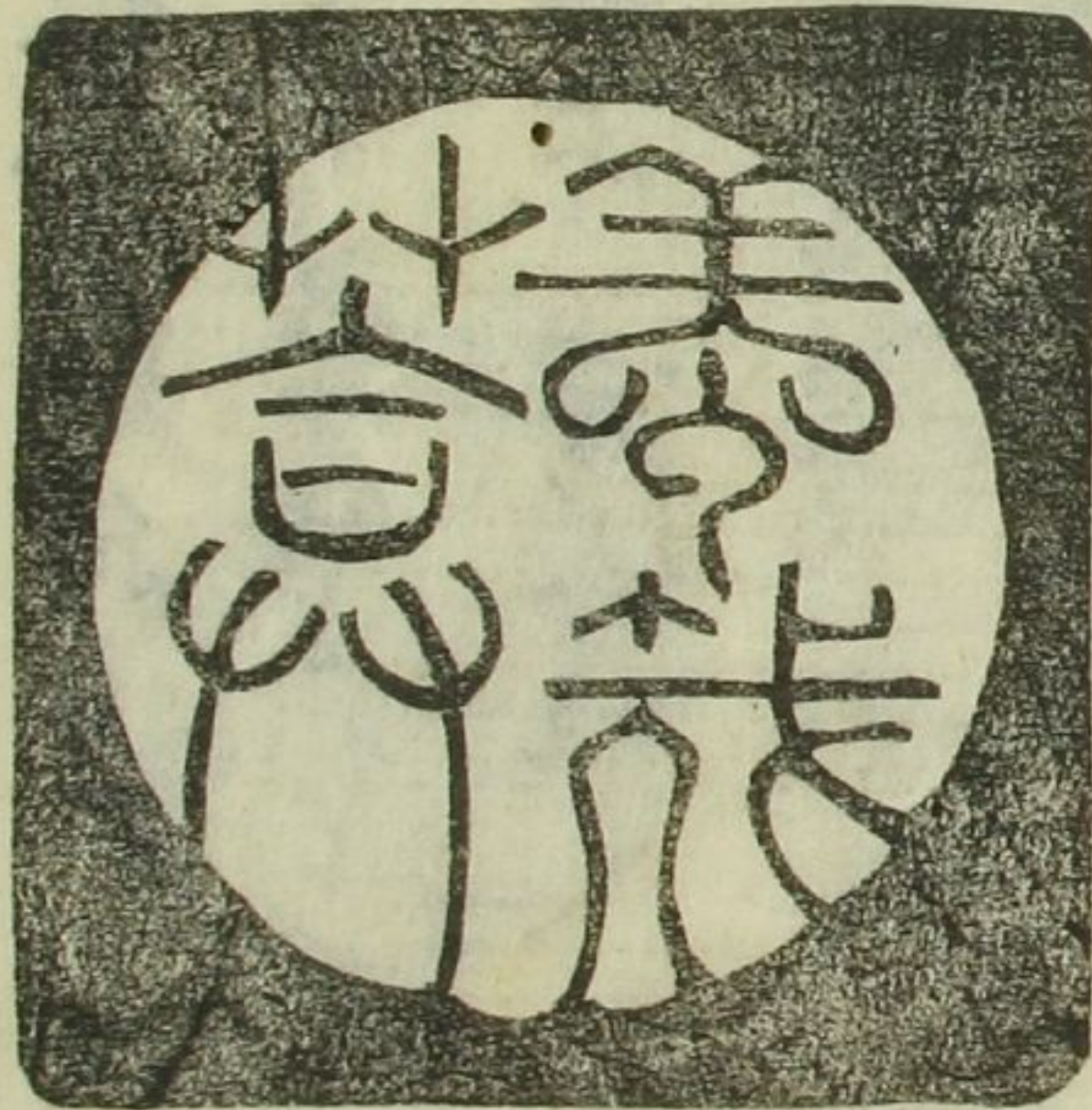


舟之公齋

三十一

善哉庵点譜

其角傳統印



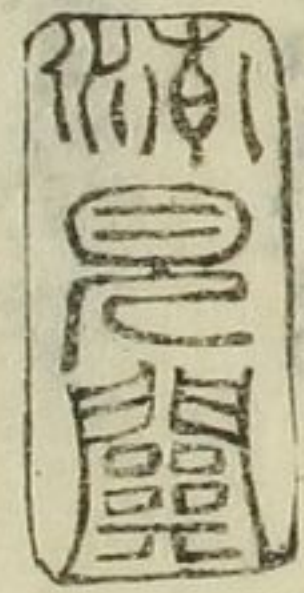
五十二



五十一



三十一



三十二

善哉庵

善哉庵

三十三

善哉庵

朱

善哉庵

八

懐のちう、嗟世の中や、年輪
 一と葉しく、花をそ、枝に
 ちりちり、柳の系、東の白く
 煙の流り、一と葉しく、谷に
 秋あま、枝の葉、ささる、月
 就中、秋の葉、ささる、山さ
 多、秋の葉、ささる、山さ
 羽、秋の葉、ささる、山さ

大 善哉庵 句

善哉庵

三十七

善哉庵高判

耳に付松丸かー 猿月

白鳥を榊に 竹やゆき

花は ちやぶと しのひ 白蛇

龍下りて 松や ちやぬ 田一 枚

筆本 似る 月影の 故を 以

扇 扇の 扇の 扇の 一も 以

む 扇の 扇の 提灯 ちや 秋の 夢

打石 ちや ちや 此の ちや 以

見 ちや 扇の 扇の 扇の 一も 以

松や ちや 扇の 扇の 扇の 一も 以

井園庵 出馬内堀 助清水町北入東側 松本眉山









松

井園庵



井園庵

井園庵点譜

					
○ 吉 一点	朱 五、	吉 八、	朱 十三、	吉 十七、	朱 十五、
○ 朱 三、					

峯や晴るくそ披るる
 似るふら二月水の蓮花
 夕月ふ影へ別るる月の
 多氣短なる魚商人やその時
 待たるるや乃きふ月といふ
 嘆てかゝ名を定ちや茶の屯
 朽るるを海青字に時あは
 外乃松山秋るるや詢り流
 右 井南庵句

井圃庵高判

相おとし常の門のまの月 荷村
 糸の飛し付の影をふるまふ 紅橋更 豊一
 夕先の光り影を掩月 其七
 空を渡る鳥の影の影の影 高ツキ 歌九
 影を隠す影の影の影の影 眉楓
 夕の影を隠す影の影の影 近雄
 夕の影を隠す影の影の影 里笑
 夕の影を隠す影の影の影 求古
 夕の影を隠す影の影の影 義選
 夕の影を隠す影の影の影 章山



朱

二十五

吉

三十

朱

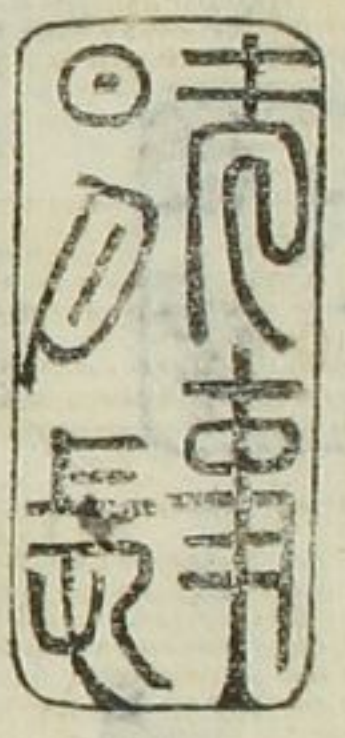
五十

朱

七十

朱

百



八十一

八十一

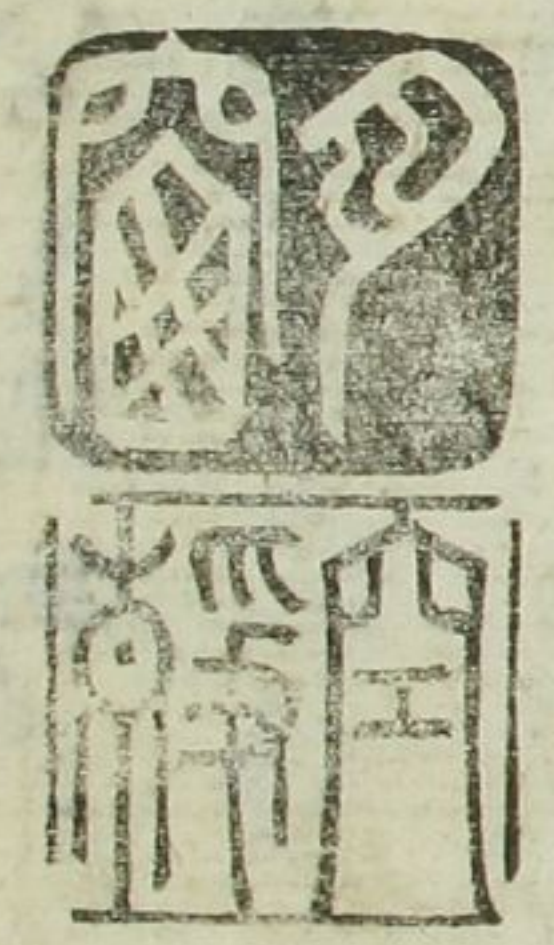
松吟
 孤雲
 吐嶽
 一朝
 燕子
 南飛
 子時

長堀高橋二本松町
 月窓 前田空靜



松吟

月窓



月窓点譜



音

八点



朱

十一



音

十三



朱

十五



音

二十一



朱

二十五

あはれいふ人のあはれ柳は
秋のねむる者も明くあはれ
葉もさへ外はさしはねるの
さしはねるさへあはれ

十月五日

月窓点譜

八三

まろしの仁かきまきまのき 流水

まろしききりしりしりしり 耻丸

まろしききりしりしりしり 風布

伊まきまきやまきまき 昇雀

まろしききりしりしりしり 井華

まろしききりしりしりしり 貴山

つりしききりしりしりしり 玉兔

まろしききりしりしりしり 一瓢

まろしききりしりしりしり 霞水

まろしききりしりしりしり 柳江

まろしききりしりしりしり 月晴

巾のまろしききりしりしり 露川

行人のまろしききりしりしり 貴水

まろしききりしりしりしり 松人

まろしききりしりしりしり 一童

まろしききりしりしりしり 秀里

まろしききりしりしりしり 松高

まろしききりしりしりしり 巨洲

まろしききりしりしりしり 竹窓

まろしききりしりしりしり 一水

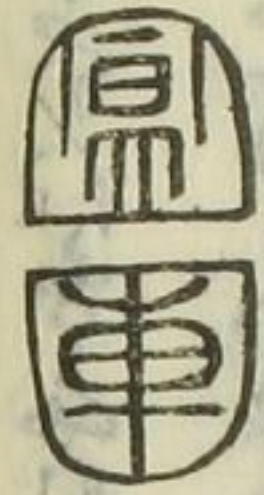
竹窓

農人橋筋内茶湯地藏東入南側
寄生庵 氏柄鳳車



考

寄生庵





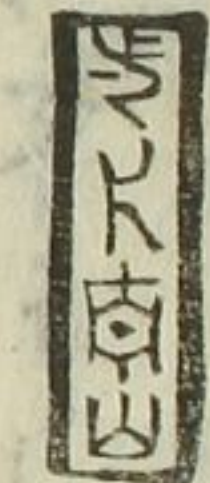





此庵の山をてかき砂の上
に造作の爲て泉の流
たあまの流のそよぎ
釣魚乃下とくう草が
あまの草のあまの草
小庵のあまの草のあ
まの草のあまの草の
あまの草のあまの草
あまの草のあまの草

右 寄りて庵 句

竹の庵
八十五

寄生庵点譜

仙の
八十五

- | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|
|  |  |  |  |  |  |  |  |
| 音朱
二十五、 | 音
二十一、 | 朱
十五、 | 音
十三、 | 朱
十、 | 音
八、 | 音
三、 | 朱
一点 |

芭蕉翁終焉地花屋裏住
花屋庵 藤本鼎左
辨窟安堂寺町御堂筋西入町有



刺
花屋之



竹の
八十六

花屋庵魚譜

梅雪——雪を渡す日の一変

黄蘗や玉座と下二身の軒

梅とあまふの影もあつたの内

瘦る物よ心付くはさし

さるまゝの中をさのちあつた

見まわしてゆくも枝や葉の花

海を回して返してきてあつた

月出るとさしあふる影もあつた

右の字は籠句

朱 一、 吉 二、

吉 六、 朱 八、

吉

朱 十三、

吉 十五、

朱

二十、



朱 吉

二十五、

非



魚屋庵の歌

花屋庵高判

あさゆふかほのせうや日の始 ^{ツ山} 露涯
さし花ハち敷ハこれと梅の花 月桂 ^{ち花}
梅の香結来る鳥引の酒の味 鼎峰
海雲茶の白ありね乃也 精木
大地や舟也を舟に引 不爭
舟のりりて流るる花のとう ^{尼ガサキ} 五雲
花ととも花のそとあゆむ 扁友 ^{ち花}
月霞は本花を伴ふ花電 不二門
七角つと眼のそえ切字も 松吟
海はしとるの裏花をきくゆ 草居

八十

きんては流るる花のそえ 其月
舟も舟ととも花を伴ふ 其し ^{ち花}
流るる花を伴ふ花を伴ふ 自來
木舟や舟も舟を伴ふ 蘭秀
夕山や舟も舟の中の花 奇翠 ^{大和}
舟も舟ととも花を伴ふ 李山 ^{ち花}
舟も舟ととも花を伴ふ 路松
舟も舟ととも花を伴ふ 雪塘 ^{ツ山}
舟も舟ととも花を伴ふ 翠葉
舟も舟ととも花を伴ふ 花朝 ^{ニラ}

花朝

大齋橋筋布屋町西へ南東角
八千房 津民淡叟

八千房
送



雪の中羽を帯びて世に揺の上
門をくぐりてくたかき
草の葉を輝く月や田のうら
木枯れぬ川原を渡る鳥哉
右のふみ句

丁
七

八千房点譜

○朱
二頁

■朱
七、

■朱
ナ、

■朱
十五、

■青
廿五頁

■青
四十、

■青
六十、

八千房高判

都妹

呼友

孤山

花遊

竹丸泉

知風

三津平

閑雪

湖の舟ニ遊や友の月

社家の掃切て有友の月

丁

七

富門
 鶴定
 七尺
 其翠
 蘭月
 竹山
 佳長
 是鹿
 席來
 席尺

攝北道場驛
 蝸牛庵

中村左梁

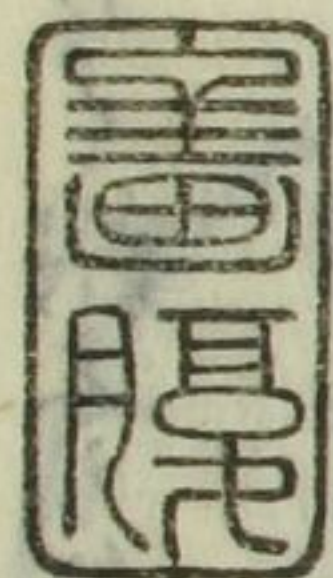
東名屋長左衛門ト云



考
 坊
 寺
 梁



蝸牛庵点譜



朱 十一



朱 九



吉 八



朱 七



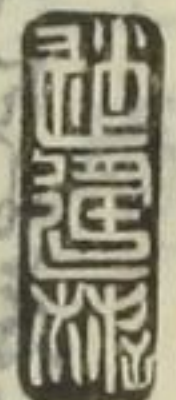
吉 六



吉 五



朱 四



朱 三



吉 二

右 蝸牛庵句

年内立春

中庭原松も娘の名あはれち
 め〜〜〜母と〜〜〜や川のあう
 石のむらあ履海と〜〜杜若
 照もをくあふ〜〜あふ〜
 とき満る日か〜〜あふ〜
 閑加浪か〜〜あふ〜
 ち〜〜とあふ〜〜あふ〜
 左庭より河やあふ〜〜あふ〜

右

六十一

判高庵牛蝸

何れもく難本を白くするは アリ 吾竺
 けりし時をいふは ナタ 快志
道場ガロ 音水
 灯のせいの倍とよしの 全 免光
ハリ 雲樵
山口 海南
道場ガハラ 柳子
クサカバ 草居
三田 文景
アリ 兼雄

親池田竜王院裡 法印
 長生庵 飯伴鶯



竹の葉
 花の葉

長生庵点譜

十一三

~~~~~の~~~~~と~~~~~の~~~~~を~~~~~  
 〜〜〜の~~~~~の~~~~~の~~~~~  
 〜〜〜の~~~~~の~~~~~の~~~~~  
 〜〜〜の~~~~~の~~~~~の~~~~~  
 〜〜〜の~~~~~の~~~~~の~~~~~  
 〜〜〜の~~~~~の~~~~~の~~~~~  
 〜〜〜の~~~~~の~~~~~の~~~~~  
 〜〜〜の~~~~~の~~~~~の~~~~~

右 長生庵句

朱 一豆 青 三

朱 六 青 八

朱 十

朱 十三

朱 十五

朱 青

二十一

朱 青

三十五



三

四

五

六

七



竹...

長生庵高判

池田 龜泉  
 池田 魯月  
 池田 春人  
 池田 胤秋  
 池田 田丸  
 三調  
 標太  
 星六  
 美丸  
 田鳳

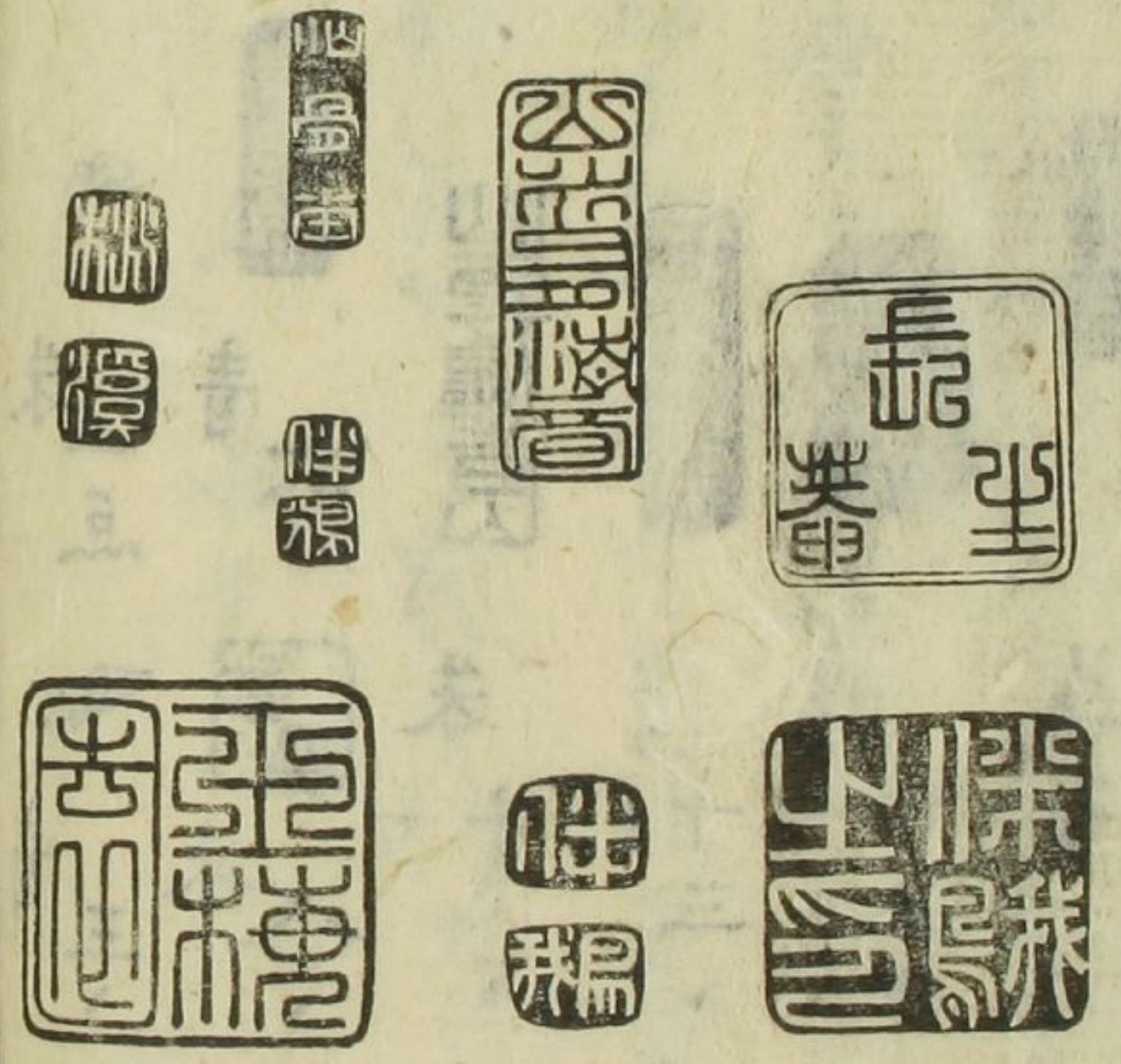
九十五



朱青

五十

九十四



九十五

九十五

中流と程をきく一運をき ナニ 赤齋

切替る香をきく一運をき カワチ 月所

露玉 池田

素玉 小川

押居 小川

花精

挑枝

有藝

一樂

柳家

撰池田乾木部村長傳寺

黄花庵 衲 白涯

別号深見草

極言の風出

野舌

草心草



九十六

九十六

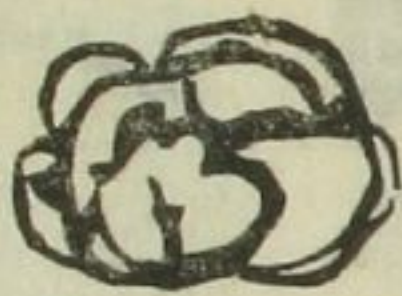
黄 花 庵 点 譜



朱 二十、



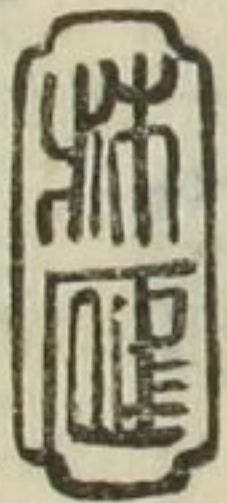
書 十五、



朱 十一、  
書 十三、



書 七、  
朱 八、



あるとらねる (書七、)



書 一点  
朱 三、  
朱 五、



書 三、

眼、あはれまきや柳の影、  
おろろもほのぼのする様、  
煮こま、や糸糸のひの向、  
まゝれてる、  
れのも、  
海、  
おろろやせとせとの、  
桶八や、  
右、  
黄、

十九、

黄 花 庵 高 判

内イノ外ソトのシめシめシあいじし山やまのかたへ 一い樂がく  
 心こゝろのしづかずいちしめしめし 文ぶん鷲じゆ  
 月つき代しろのかたへ 露つゆ玉たま  
 流ながるる水みづのかたへ 美み丸まる  
 新あらた玉たまのかたへ 三さん朝あさ  
 筆ふでのかたへ 梅うめ里り  
 誰たれのかたへ 田い丸でん  
 水みづのかたへ 田い丸でん  
 夕ゆふかたのかたへ 田い丸でん  
 人ひとのかたへ 田い丸でん



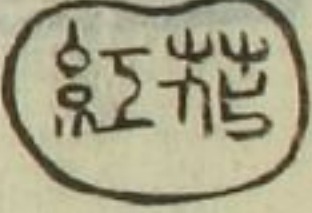
加印 朱十一



朱 三十一



朱 二十五



青 二十五

あまのりやむらさきナカ 柴人

鏡戸ナニ 松坡

芦の穂ナニ 安古

新玉のほろナニ 桃変

ゆきをナニ 雲扇

初雪ナニ 十方化

そのとナニ 軒

まのナニ 白介

てくナニ 花精

あまナニ 笑山

撰玉川近隣二階堂

空木庵 神谷七路

文音所松屋町追手南入布平



刺

空木庵









木草一もいふまゝなる 亀樂  
 出るるおのれはしむる 孤舟  
 待たぬかきかき子規 松壽元  
 果古なるゆめゆめと申す 美躬  
 年あつたりけりはまの月 竹房  
 紅葉のふみもあまの雪のふり 如流  
 動ひとていふふふふふ  
 狂程の戸はけし雪の裏 乙蟻  
 暇ひ人のおぼろがう冬病 百久  
雑 ちかちか同しをさや不二の山 芦洲

後編之部

近刻

比良城林曹

蒼竹庵白鷗

木僊庵其山

黄鸝園春人

應時齋良化

九華庵井竹

晋子堂蘭光

夜白園照海

井華庵千鶴

五木庵五木

附録

蕉翁参禪師

佛之教を傳へし人其の徳は佛頂老

右應好而記

眼あかきと花葉菜の梅室

たもみ、備わるとは福を棊室

川越の竹刻者や鮎の声 芦汀

虫の声や松海のこよみ 宗林

笑ふも静かれば是は活聲酒 完耕

生果を圃に採る舟の静さ 素水

澄かき中に静かき草花 エガカ 千代郷

ふるさとを憶ふ人 泉大ッ 音路

ちよとや空はひや根はく 千鶴

ちよとや空はひや根はく 玉川 都春

ちよとや空はひや根はく ナラ 周能

ちよとや空はひや根はく 鳥羽 其山

ちよとや空はひや根はく 梅南

ちよとや空はひや根はく 暮均

ちよとや空はひや根はく 一瓢

ちよとや空はひや根はく 鳥塚

ちよとや空はひや根はく 南 南洋

ちよとや空はひや根はく 不二

十の巻  
百三

時向まら時、葉、有、神のね 時子女

あるとして正月心持ひ多 貞菜

門まてしてつかまるとまゝ 旭浦

あつたまのおも借まぬ田家撰北 潦水

鉦を響ふ故のたひ秋馬、梅住

鈴をやゆの中りる毎の塚、柳甫

綿妻、もろのりり、祢直の袖 玉崎

汲人もあはれゆり井や、秋の氣宅原 春景

隙をまろくまれや地の白ひ、窓月

何まのまろま物ふるふ川の底 五木

何のひと一か所む柳山 史千

まきのゆれもはらけは引 阿やう

まゝれや打くたぐ、袖ま棚 五鯨

屏風地や抗とちうてまゝ 郊馬

酒をの煙りのあはれ原ま、暖香 月方

角あやま事おるま、炬半 林曹

まゝう、灯の浅きとて冷く、瓶 夜白

後足せておや秋明の時も 畧推

まゝまゝとて日と候飽れ杜母 松巢

接ふう、あや堂の意を、雨艸

行の巻  
百四

百四丁

灯とあて足先ひらり初雪 歡里

是より冥途にゆく船に 李暁

新羅の山をよみ世を言ふ 洛 かつち

の尾をくまはる持流る 富田 素梅

日のかみふらふ田植 富田 三朝

遠のや敷雪のむらぶら、成美

揖者のさく世間とつらふ、笑花

はらふあつ延て有り今も竹、觀來

禁煙や井より春雪の氣を、里童

梅の明柳よりふる戸は 柳 雨右

浮きや月も揚る古川 徳山 吟風

法師のつゆさくは花を、早長

お中を門かきあふ海に、九亨

うら低る山もあそむ掛ひら、青芝

見よふあふ人のあそむる月、社來

梅先の紅くついでて月線、錦雨

帆柱の影梅をさるる雲、黄甫

柳もや雪のよきお埃、岡吉

船の板の紅くあそむる、霞汀

雪もさくさくあそむる、沙鳥

百五丁







物名 三節

おのまきり

年々やぶら敷く先賢耳たて

梅のまきり

年々やぶら敷く先賢耳たて

竹のまきり

生花のまきり

折句全

池のまきり

右 鄭子樓 和雄

亀 塙梅 左編

胡蝶庵 一

鄭子樓 和雄 技

東寧堂 延平書

北尾春星堂俳書目録

暇助高判弁句集 全一冊

俳諧耳勝手 全一冊

同 續編 全一冊

俳諧三部書 全三冊

俳諧山分衣 全二冊

俳諧袖草紙 全三冊

冠附洗ひよ 全一冊

同 早苗取 全一冊

折句智恵袋 全一冊

折句選 全一冊

画合遠路鑑 全一冊

同 手引園 全一冊

俳諧松の葉 全一冊

俳諧竹の茂 全一冊

天保十三壬寅孟春刻成

浪華書林 高麗橋一丁目 藤屋善七藏

